

# 本丸通信

発行所 月日星 編集 セキレイ

©WagtailW

## 開会劈頭を飾る

### 名宝中の大物三つ

#### 何れも十九日一日限りの展観 明後日に迫った名宝展

日七十月四

絶大な人気の一瞬千秋の思いで待たれつつある本社主催第二回名宝展の開会もあと一日に迫った。この日正午からの一般公開に名宝展の劈頭を飾る三つの大物「日本號槍」「ヘシキリ長谷部刀」「法相宗秘書絵詞十二貫の第一、二巻」は閉館の午後五時まで僅かに五時間を限って陳列される特別出品、このうち「日本號槍」の興味ある由緒伝来はあす「名宝物語」の最終を飾る筈だが「ヘシキリ長谷部刀」は織田信長が近侍の茶坊主観内の反抗を詰問するや観内は主の激怒に怯えて膳棚の下に身を隠した卑劣さに立ち所にこれを斬り棄てた国重作二尺一寸の愛刀で名物刀剣中の逸品。また本邦絵巻中の金字塔「法相宗秘書絵詞」は全十二巻を二巻、つづ六日間に亘り陳列する予定なので以上三品はいづれも一日限りの出陳であるから十九日を見逃したら再び見る■のないものである

## 本日名宝物語

### 僅か五時間の顔見世 出た!! 日本號の槍

#### 黒田長成の秘宝

日八十月四

出た! 日本號の槍が! 誰もが、子供の頃より耳にすること久しい日本號の槍、何故に片鱗を窺うことすら出来ぬか何故に今日まで大衆に公開されなかつたかーそれは余りにも黒田良成侯爵秘庫の扉が堅く、何人も力及ばず、昨年第一回名宝展の際にも百法秘術を尽くして、押せども、叩けど頑として左右に開かなかつたものである。それが遂に今回は開かれた、そして出た、天下に名の轟く日本號の槍が! とところが意外にも初日の十九日に、ただ五時間公開されるだけである、親は子に、子は孫に語り継ぐべき日本號の名槍を、一生ただ五時間を限り見られるとは、遺憾ではあるが、またせめてもの大幸だ!

齒の長さ凡そ三尺余、平三角造りて樋の内に龍の浮彫あり、無銘なれど、或る記録に日本郷と誤記されたため、郷義弘作と誤伝せられたが、一方には相州正廣、平安城長吉、金房正辰等の諸説紛々、ただ足利中期の作たるとは確実で、地刃彫刻共にすこぶる優秀、作風は正しく槍作中天下一品である。黒田家の記録に従えば、黒田家の秘庫に居る福島正則が伏見の自邸に居る時或る日、突然に、黒田家の使者なりと称し、その門を潜る者あり、正則これを引見するに豫て黒田家の勇士母里太兵衛である。正則頗る喜んで歓待し太兵衛が好物の酒を出したが、主家を恥かしむる行為あつてはと、太兵衛は断然拒絶。

## 名宝展あす開場

### 名工巨匠の神器靈気を湛へて お胸迫るその感激

日八十月四

花は散れども葉桜の蔭に、また金色と咲き誇る古芸術の殿堂は古来三千年の我が国史の側面を語るべく、正しく明十九日の午前九時と厳かにその靈妙極まる扉を左右に開き、そこに我君国特有の世界、万人ともに愛らかな秘境を展開し、これを主宰するあらゆる古芸術の神々は、人々をして存分に忘我の三昧境に遊ばしめんとするのである。すでに第二回日本名宝展覧会の計画に着手してより、斯く開会を見るまで費やすこと僅かに四か月、即ち、この短日月間において斯くの如き国家的一大事業を実現し得たこと、実に識者は

これを破天荒なりと喚んで驚嘆して居る。ともかく、名宝の殿堂は明朝開扉されるのである、一步を府美術館の石段にかくれば、早くも名工巨匠の靈気を感じ更に一步を踏み入るれば、忽ちそこには風格詩韻ともに縹渺として遍る水墨の天地あり、凄艶にして秀麗極まりなき絵巻の国ひらけ、転すれば絢爛月も眩ゆき美術工芸の集まり、また他を顧みれば秋霜峻烈を肌覚ゆる名刀の林は続き、或いは、その豪壮華麗を一世に誇らんとする屏風の金壁があるなど、一度この殿堂に入ればまた再び出づるを忘れし

「太兵衛、そちの勇名をきく」とも久しい、然るに、勇士が酒を嗜まぬとあつては、名折れぢや、恥ぢや、いやや卑怯であらうぞ」正則は既に酔が廻っている。「卑怯!」この一言が太兵衛の胸にぐつと来たのである。「さあ呑め、呑めば何でも望みの品を取らせる」この時、太兵衛の眼に留まったのは、正則の頭上に懸つて居る、太閤より拝領の名槍、正則自ら「日本一」と誇るため次第に世間で「日本號」と綽名して居る名物である。大杯に三つ——太兵衛は見事に乾した。「では、あの槍を」太兵衛は卑怯の一言に酬いる腹である。「諾」正則は、微笑しながら雑作もなぐ渡したが、翌日酔が覚めて大騒ぎ、正使を派して太兵衛に頭を下げたが、太兵衛は頑として応じない。

黒田藩では、誰が詠むともなく、酒は呑め、呑むならば日本一のこの槍を呑み取る程に呑むならばこれぞまことの黒田武士との今様が流行、その後藩士の会合ある度にこれを合唱し、現存でも筑前の懇親会、結婚披露宴などにまで踏襲されている。恐らく、これに誰かが尾緒をつけ、朝鮮役での虎狩を出し、後藤又兵衛との交渉を作つたかどうか——今議論の限りではないが、「日本號の槍」と云えば酒屋の小僧でもして居る。昔語りを誇る古老ですら見た事は無いのである。往け、名宝展へ! 公開は僅かに五時間に限られている、何とかして時間を延長せんと奔走中だが、日本を代表する名槍、天下の槍を代表する日本號なれば、国家の重宝、黒田家の秘宝として、却々許されぬ事情あり、せめても、五時間だけなりと拝み得るが、これもつけの幸である、誰かこれを見ぬと云ふ!

め飽くまで恍惚たらしめずば止まぬのである。先ず見よ! そして語れである。誇らかに待つ天下の名宝、その真価に接する絶好の機会なのである。特に、名槍「日本號」並びに名物「ヘシキリ長谷部」の神刀は明十九日の一日を限り大衆に公開を許されてあるもの、この機を逸しては孫子の代まで見るを得ず、全く貴重な第一日ではないか!

四月二十一日夕刊

## 第二回

### 日本名宝展覧会目録

△ 会場東京府美術館  
△ 会期昭和五年  
四月十九日より  
五月十五日迄

## 刀劍

和泉守兼定 一	侯爵細川護立家
光忠 一	侯爵細川護立家
備前吉房 一	元帥東郷平八郎
助真 一	日光東照宮
新藤五国光 一	伯爵小笠原長幹家
景光・景政両作刀 一	伯爵奥平昌恭家
正宗 一	伯爵津輕義孝家
則宗 一	子爵土屋正直家
守家 一	子爵土屋正直家
備前助包 一	根津嘉一郎家
備前長義兼光 大小二	根津嘉一郎家
古備前眞恒 一	國宝静岡久能山東照宮
日本號の槍 一筋	侯爵黒田長成家
長谷部國重 一	侯爵黒田長成家
一國兼光 一	侯爵山内豊景家
友成 一	男爵山本達雄家
御手杵の槍 一筋	伯爵松平直之家
埋忠明壽 一	男爵古河虎之助家
石田眞宗 一	小川悦之助家
二字國俊 一	皇室博物館
伯耆安綱 一	皇室博物館
當麻國行 一	伯爵阿部正直家
栗田口國吉 一	子爵秋元春朝家
(鳴狐)	
氏家貞宗 一	子爵秋元春朝家
大原眞守 一	子爵秋月種英家
備前長船修理亮盛光 一	
土佐吉光 一	木村久壽彌太家
(坂本龍馬愛用大小)	
無銘 大小二	溝口直亮家

かっこ内は編集者による注記

## 「日本號」槍と 「ヘシキリ長谷部」刀 二十三日まで展覧日延

四月二十日

開会第一に名宝展を鑑賞した人々は口を揃えて、荘嚴の氣漂う場内の偉觀に全く魅惑され恍惚として名宝氣分に浸つた。激賞、礼賛の聲は一品、一作の前に漏らされていた。この会場に十九日一日だけそれも正午から午後五時までの僅か五時間だけの陳列であつた黒田侯爵の秘宝「日本號槍」と「ヘシキリ長谷部刀」はあまりにも惜しまれるその名残と日延への熱望とが容れられて二十三日まで五日間続いて陳列するという吉報が昨日午後、黒田侯家から通ぜられた。何といふ喜ばしい吉報であらうか。

## 今日限りの

### 二名宝

日三十二月四

開会日の十九日当日だけとして出陳された黒田侯爵家の秘宝「日本號槍」と「ヘシキリ長谷部刀」は鑑賞者の熱望が容れられて特に五日間陳列され呼物となつていたが、今二十三日夜後五時限り黒田家の秘庫に返されるのである、再び見ることの出来ぬ今日の好機を逃さぬやう

